

シンポジウム基金成果報告書  
PLoP テネシー州ナッシュビル

成瀬美悠子  
総合政策学部四年

[s05584mn@sfc.keio.ac.jp](mailto:s05584mn@sfc.keio.ac.jp)

学会名：Pattern Language of Programs (PLoP) conference 2008 workshop

開催日程：10月18日ー21日（日本時間）

場所：テネシー州ナッシュビル convention center

目的：「プロジェクトを推進するためのパターン・ランゲージ」を提出し、パターン・ランゲージの学会にて修正のアドバイスと承認をもらうために学会に参加する。

参加報告：

一日目

学会初心者のための BOOTCAMP に参加する。パターン・ランゲージの基礎知識や、書き方などの講演を聴く。VANDERBILT UNIVERSITY にて 6 時間ほどをコミュニティにて親交を深める。その夜レセプション。

二日目

各部門に分かれて、それぞれのパターンを修正していく。その際の進め方や方法のデモンストレーションに参加する。パターンを提案した者は、「壁のハエ」になったような気持ちで他の人々の議論をメモすることとなる。その議論を聞くことで、パターンの何を直していくべきかを知ることが出来る。プロセスは以下の通り。この進め方の利点は、人々のアウトプットを肯定的に受けとめ、更に改良に進めていくという点である。パターンという答えの無い、創造的なツールを作成する際には、そのようなポジティブなフィードバックが重要である。

デモンストレーションの写真とプロセスについて⇒

Process

- welcome
- input from an author
- summary /essence
- positive feedback
- improvements (constructive)
- sandwich (closing motivation)
- author returns
- questions
- applause



デモンストレーション



部門別のワークショップに参加する。学会参加者は 'Design & Architecture', 'Security & Quality', 'Processes & Services', 'Software & People' 4つの部門に分けられ、一部門 10人ほどで議論を行なう。本論文は Processes & Services 部門にて議論されることとなった。他の論文に対して質問・コメントを通してのブラッシュアップに貢献する。

#### 'Processes & Services' (Room 'Rhythm & Blues')

Moderators: Lise Hvatum and Bobby Woolf

##### ⊕ "Runtime Mix'n Match: providing dynamic runtime binding infrastructure to resolve functional intents on the fly"

Paul G. Austrem

##### ⊕ "Deferred Cancellation of Units of Execution"

Philipp Bachmann

##### ⊕ "Design Patterns for Domain Services - Fundamental Design Solutions for Service Oriented Architectures"

Rob Daigneau

##### ⊕ "Handling Atomic Business Services"

Geert Monsieur, Lotte De Rore, Monique Snoeck, Wilfried Lemahieu

##### ⊕ "A Pattern for Monitoring Scenarios to Handle State Based Crosscutting Concerns"

Mark Mahoney, Tzilla Elrad

##### ⊕ "Coordinator-Worker-Context"

John Liebenau

### 三日目

本論文の修正の時間を一時間半もらう。パターン・ランゲージを使用してソフトウェアの開発を行なっている方々にコメントや改正点を話し合ってもらい、メモや音声メモを取りながらそれをまとめる。後半は実際に模造紙に改善点を反映させる。この時の議論を元に、11月末までに本論文を改修し、再提出することとなる。

### 四日目

パターンを使って様々な取り組みを行なっている研究者の発表を聞く。

### 視点

日本におけるパターン・ランゲージは、より表面的な技法的な方面に偏っていたように感じる。パターン・ランゲージのあり方や作りかたなど、深い部分を考察していく必要があると考えた。今回の学会を通して、パターン・ランゲージが現実世界の障害となる「力」の解消を目的としているなどというアレグザンダーの思想についての先進的な見地をも得ることができた。パターン・コミュニティの承認を得ることは、そのパターンが有効なものとして認められたということである。その承認にふさわしいパターンを、これからも作り、試していくことを続けていきたいと思う。

